

様式第1号(第3条関係)

令和5年5月10日

受 講 届

栗山町議会議員 鵜 川 和 彦 様

栗山町議会議員 鈴 木 千 逸



このたび、下記のとおり受講したいのでお届けします。

研 修 日	—
目 的	USBデータによる研修受講
講 師	行政システム総研 顧問 榎並 利博 氏
研 修 内 容	地方議員研究会主催 あなたの街を見える化する 「地方議員のための地域経済分析システムRESAS活用 基礎編」 「地方議員のための地域経済分析システムRESAS活用 応用編」
受 講 料	<u>30,165 円</u> (2講座分) ○別紙のとおり
※ 研修会・会議等の場合、案内文書等の写しを添付のこと	



あなたの街を見える化する 特別セミナー in東京

5月13日(土) 5月26日(金)

10:00~12:30

地方議員のための地域経済分析システム RESAS活用 基礎編

- ・RESAS(地方経済分析システム)の概要:
RESAS操作の基本、RESASの全体像
- ・地方財政マップ解説:地方財政指標
(財政力指数、経常収支比率、実質公債費比率、
将来負担比率、人口あたり職員数、人口1人あたり
人件費・物件費等の決算額、ラスパイレス指数など)
などの見方と使い方
- ・人口マップ解説:人口構成、人口増減
(自然増減、社会増減)、
将来人口推計、人口メッシュなどの見方と使い方
- ・医療・福祉マップ解説:医療需給、
介護需給の見方、比較の仕方

14:00~16:30

地方議員のための地域経済分析システム RESAS活用 応用編

- ・RESASの経済分析活用事例と議員の役割
- ・生産分析について:地域内産業構成、
各産業生産額、影響力・感応度分析の見方
- ・支出分析について:総支出・民間消費・
民間投資・その他支出の見方
- ・観光マップ解説:目的地分析、
From-to分析(宿泊者)などの見方と考え方
- ・地域経済循環マップ解説:地域経済循環の見方と考え方
- ・分配分析について:総所得・雇用者所得、
その他所得の見方
- ・産業構造マップ解説:全産業構造、稼働力分析、
製造業構造などの見方と考え方
- ・企業活動マップ、消費マップ、まちづくりマップなどの解説

講師紹介

えなみ としひろ
榎並 利博

行政システム株式会社
行政システム総研 顧問
資料情報株式会社 管理部
主任研究員

1981年 東京大学文学部卒業。1981年 富士通株式会社入社、自治体向け情報システムの開発作業に従事。
1996年 株式会社富士通総研へ出向、電子政府・電子自治体、地域活性化分野を中心に研究活動を行う。
住基ネットの時代より番号制度の研究に携わり、各種団体活動を通じてマイナンバー制度の実現へ取り組む。
また、地域活性化においては、事例研究とともに地方活性化レストランの実践活動も行う。
『自治体のIT革命』、『社会変革する地域市民』、『地域イノベーション成功の本質』、『共通番号(国民ID)のすべて』、『企業のためのマイナンバー取扱実務』、『医療とマイナンバー』など、電子政府・地域活性化関連
およびマイナンバーに関する著書多数。

日 時	令和5年6月17日 10:00～17:00
視 察 先	自宅にてオンライン受講
調査事項	「地方議員のための RESAS 活用法 基礎編・応用編」
対 応 者	榎並利博氏（行政システム㈱ 行政システム総研 顧問）
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 （感想、政策提 言、課題など）	RESAS（地域経済分析システム）について理解を深める目的で受講した。 基礎編は以下のテーマで講義。 1 人口マップの利用 2 地方財政マップ 3 医療福祉マップ 人口マップは以下のカテゴリーでデータを呼び出すことができる。 ● 人口構成 ● 人口増減 ● 人口の自然増減 ● 人口の社会増減 ● 新卒者就職進学 ● 将来人口推計 ● 人口メッシュ ● 将来人口メッシュ 人口推移、人口ピラミッド、合計特殊出生率、地域少子化、定住人口など、栗山町のデータをはじめ都道府県、市町村単位で全国のデータを比較できる。人口の将来推計のデータなどは今後の政策提案などで必要な資料となると思う。年少者人口から見る子育て世帯の推計はその資料として役に立つ。また、定住促進に関しても必要な数字が取り出せるので他のデータと比較して見ると興味深い。 地方財政マップ ● 自治体財政の比較 ● 一人当たり地方税 ● 一人当たり市町村民税法人分 ● 一人当たり固定資産税

自治体財政の指標を確認することができる。財政力指数、経常収支比率、実質交際費率、将来負担比率、人口当たり職員数、人口一人当たり人件費・物件費等の決算額、ラスパイレス指数（職員の給与水準指数）など自治体の分析に必要な数字を取り出すことができる。これらについても決算カードの資料に加えてみることで財政力を計ることに役立てたい。

医療福祉マップ

- 医療需給
- 介護需給

これについては都道府県単位のデータでしか見れないが、推計入院患者数、推計外来患者数から見た北海道の医療需要や、病院数や医師数から見た医療供給の実態を見ることができる。介護需給についても同様に分析が可能である。これにより北海道が他の都府県と比較してどの程度の順位であるのか、医療格差の目安としてみることができる。

応用編では以下のテーマで講義

- 1 地域経済循環マップ
- 2 産業構造マップ
- 3 企業活動マップ
- 4 消費マップ
- 5 観光マップ
- 6 まちづくりマップ

地域経済循環マップ

- 地域経済循環図
- 生産分析
- 分配分析
- 支出分析

生産額、付加価値額、雇用者所得、移輸出入収支額、総所得、総支出、民間消費、民間投資などが見られる。栗山町では地域経済循環率が2015年の76.1%から2018年では71.4%と4.7ポイント低下している。雇用者所得は2015年155万円から2018年158万円となっているが同じ年度の全道平均では194万円から204万円となっており全道平均と比べて40万円程度低い値となっている。

その他のテーマでも、分野別にカテゴリーが設定されており非常に興味深いデータの見方を示された。これからの町の発展のために現状と過去のデータを資料として分析の材料として役立てたい。